ヴァーリヤ！　愛の素顔（1983）

BEZ SVEDETELEI

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 ソ連
時間 95分
初公開日 1984/02
公開情報 国際シネマライブラリー

【解説】

原題を“目撃者なし”というこの作品は、脚本にも参加したプロコフィエワの戯曲に基づく、登場人物二人の実験的な密室ドラマである。モスクワのアパートの一室。ラジオ・コンサートを聴きながら、婚約者“ヴァーリヤ”への手紙を書く女（クプチェンコ）が、その曲名から９年前に別れた前夫を思い出していると、酔った当人が突然部屋に入ってくる。彼（イリヤーノフ）はその後、アカデミー会員の教授と再婚、ナターリヤという娘があり、彼女がラジオの公演に出演したので祝杯を上げての帰りだった。彼は女と交際する以前、ニーナという女性との間にジムカという男の子を設け、ニーナを死なせていた。ジムカを引き取って今まで育てたのは女で、ジムカは真相を知らず、たった今、ヴァーリヤの家に遊びに行っている。女は動揺し、二人に電話をかけ“もう自分の家に近寄らない”よう告げる。彼も興奮し、もし再婚するならジムカを連れ去ると脅して女を部屋の外に出さない。納戸へ女を誘い込んだのはいいが、鍵が壊れ閉じ込められると、彼は落ち込んで、妻の浮気や娘の自分への軽蔑を口にし、女との復縁を願うが、泣きながら女は“もう愛していない”とこれをはねつけた。と、そこへ納戸のドアをこじ開ける音がし、光が溢れ入る。“ヴァーリヤ！”と叫ぶ女の表情は愛に満ちている。結局、“ヴァーリヤ”が姿を現わさずじまいに終わるこの映画は、当時のソビエト社会に因んでの裏読みもされたが、ミハルコフ演出にそれだけの鋭さはない。そのラストの光の効果にこそ眼目がある、ベルイマンもどきの男女の葛藤劇にすぎない。

【クレジット】

監督	ニキータ・ミハルコフ	Nikita Mikhalkov
原作	ソフィア・プロコフィエワ	
脚本	ニキータ・ミハルコフ	Nikita Mikhalkov
	ソフィア・プロコフィエワ	
	ラミス・ファタリエフ	
撮影	パーヴェル・レーベシェフ	Pavel Lebeshev
音楽	エドゥアルド・アルテミエフ	Eduard Artemyev
出演	イリーナ・クプチェンコ	Irina Kupchenko
	ミハイル・ウリヤーノフ	Mikhail Ulyanov

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.